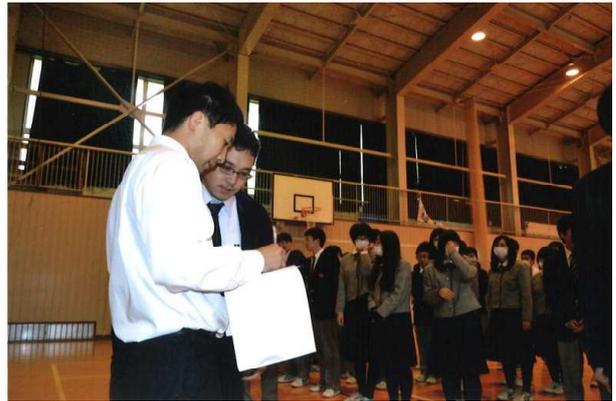


避難訓練週間

10月24日(水)12時20分、予告なしの避難訓練がスタート。4校時の授業の途中でしたが、地震発生の緊急放送で、生徒は全員シェイクアウトをしました。2分後、避難指示の放送。雨天のため、避難場所がさくらスクエアから第2体育館に変更しました。避難完了予定は10分でしたが、4分20秒で完了。避難後、大槌町危機管理室長から講評をいただきました。「災害から自分の命を守り、周囲の人のために役立つことをすることを学校の伝統として守り伝えていってください。」今年から、訓練終了後、各係毎に分かれて避難所の運営の準備について確認を行いました。



10月31日(水)岩手医科大学医学部救急・災害・総合医学講座 災害医学分野 教授 眞瀬智彦氏をお招きして、防災講演会を行いました。演題は「災害時の医療活動について」救急医療と災害医療の違いや災害医療の具体的な事例、更には今後の震災の予想と備えについて、スライドを用いながら分かりやすく、予定を10分以上オーバーして熱い講演を行っていただきました。生徒もメモを取りながら熱心に拝聴しました。



避難訓練で具体的に活動し、防災講演会で理論を確認し、防災について深く学んだ一週間でした。



【講演会の生徒の感想】

○私は東日本大震災で地震と津波を経験しました。また、避難所生活、支援物資の配給なども経験しました。ライフラインが停止し、当たり前だった生活が当たり前じゃなくなった時、とても困りました。当時は小学校四年生でいろいろな出来事に困惑しましたが、水配りなど誰かのためになることは些細なことでも手伝ったりしました。高校生になった今、もし自分が同じ状況になった時は、当時の大槌高校の先輩のように避難所運営をしっかりやらないといけないと思いました。

自助・共助・公助という言葉はとても大切だと思います。自分の身はしっかり自分で守り、家族と支え合いながら周囲の人を救えるような人材になりたいと思います。

○私は7年経った今でも2011年の東日本大震災を鮮明に覚えています。

今回の講演会で大切だと思ったことは津波や地震の対策をしているかどうかで災害後の状況が変わってくると言うことです。災害が起きてからではなく、今から地震を想定した避難方法や避難場所の確認をしておいても決して遅くはないということに気づきました。

私の就職先がホテルなので災害が起きた際には今日学んだことを忘れずに生かしていきたいと思いました。

○災害が多く発生する日本に住む私たちは普段から災害に関心を持つとともに、その対策や対処法までしっかり身につけていかなければならないと感じました。また、進学のために親元を離れて生活するようになると、全て自分の責任で行動しなければならないため、今回学んだ「自助・共助・公助」を意識し、どんなことがあっても乗り越えられるようにしたいと思います。

私は将来、理学療法士になって災害が起きた際には被災者に寄り添った支援をしたいと考えています。避難所において、軽い運動やマッサージをすることで被災者の健康を守り、生活の質を高めたいと思います。